

カンボジア 2008年人口センサス実地調査の状況(メモ1)
- Stung Treng 州及び Ratanak Kiri 州 -

1. 実地調査視察への同行者

Stung Treng 州

Mr. Duong Paov, Director of Planning Department, Stung Treng
Mr. Men Reth, Deputy Director of Planning Department, Stung Treng
Mr. Keo Sambath, National Institute of Statistics (Assistant Regional Officer)
Mr. Kim Net, Bureau Chief, National Institute of Statistics (NIS, Counterpart)

Ratanak Kiri 州

Mr. Yat Sokham, Director of Planning Department, Ratanak Kiri
Mr. Sun Sopheap, Deputy Director of Planning Department, Ratanak Kiri
Mr. Long Chintha, Deputy Director, National Institute of Statistics (Regional Officer)
Mr. Khuon Sithana, National Institute of Statistics (Assistant Regional Officer)
Mr. Khean Tharolin, National Institute of Statistics (Assistant Regional Officer)
Mr. Kim Net, Bureau Chief, National Institute of Statistics (NIS, Counterpart)

2. 実地調査視察の日時

Stung Treng 州

2008年3月5日 午後4時~
2008年3月7日 午後4時~

Ratanak Kiri 州

2008年3月6日 午後2時~
2008年3月7日 午前8時~

3. 実地調査視察の場所

Stung Treng District, Stung Treng 州

Stung Treng 州は、首都プノンペンから北へ約400kmのカンボジア北部に位置し、ラオス国境に接している。州都は Stung Treng District でメコン河上流に面している。州の人口は81,074人で、人口密度は7人/km²(1998年)。

Bang Long District, Ratanak Kiri 州

Ratanak Kiri 州は、首都プノンペンから北東へ約500kmのカンボジア北東部に位置し、ラオス及びベトナム国境に接している。州都は Bang Long District で、宝石やコーヒーの産地として有名である。州の人口は94,243人で、人口密度は9人/km²(1998年)。

4. 実地調査視察の概要

計画省統計局(NIS)は、2008年3月3日午前零時現在をもって、カンボジアの全国民(外国人を含む)を対象とした人口センサスを実施した。2008年人口センサスは、1990年のカンボジア和平成立以後、1998年以来第2回目となる。

今回の実地調査は、2008年2月29日~3月2日にかけて世帯名簿作成(Household Listing)が実施され、3月3日~13日にかけて実地調査(Enumeration)がカンボジア全土で一斉に実施された。

指導員・調査員約3万人(約5%の予備調査員を含む)は、主に教員や公務員で構成されており、全体の半数以上が、前回の1998年人口センサスを経験している。

なお、調査票及び調査員のマニュアル等は、以下のページに掲載されている。

<http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/documen2.htm>

今回の出張では、実地調査(Enumeration)を視察したが、調査は、世帯名簿作成(House Listing)時に補完した調査区要図(EA Map)を基に、各世帯に貼付された人口センサスのステッカーを確認しながら、各調査区の全世帯を訪問し、調査員が世帯にインタビューして調査票(Form B)に記入する方法(他計方式)により行われた。

(1) Stung Treng 州

実地調査(Enumeration)を視察した調査区の1つは、Stung Treng市の中心部から車で3分程度の位置にあり、住宅が隣接する閑静な住宅街であった。

実地踏査時に気づいた点等は以下のとおりである。

世帯は、調査員に対して、丁寧に対応しており、また、調査員も真摯に調査にあたっていると見受けられた。全体的に大きな問題はなく、人口センサスが実施されていた。

世帯数が、調査区設定時に把握された数より、かなり多いことが判明し、調査期間内に調査を完了できるか否か分からないとのこと。

指導員及び調査員の手当は、USD3-/日であり、少なすぎるという声があった。現在のレートでは、最低でもUSD5-/日とのこと。このため、今回は、質の良い調査員を採用することが困難であったとのこと。

調査時点直前の3月2日夜、Stung Treng市では、サッカーの試合が行われていた。調査時点の3月3日午前零時になっても、観衆の一部が試合場付近に残っていた。De factoの定義上は、これらの観衆は、試合場付近で調査しなければならない。今回の人口センサスでは、対象把握の方法として、現在地主義であるde factoを採用しているが、カンボジアの現状を見るにつけ、ふだん住んでいる場所で調査する常住地主義のde jureの方が適していると思われる。

(2) Ratanak Kiri 州

実地調査(Enumeration)を視察した調査区の1つは、Bang Long市の中心部から車で5分程度の位置にあり、幹線道路に面した事業所の多い地域であった。

実地踏査時に気づいた点等は以下のとおりである。

世帯は、調査員に対して、丁寧に対応しており、また、調査員も真摯に調査にあたっていると見受けられた。全体的に大きな問題はなく、人口センサスが実施されていた。

Ratanak Kiri州は、人口密度が9人/km²(1998年)とかなり低く、世帯が広範囲に散在している。したがって、調査実施には、かなりの移動を伴うが、移動のための交通費(主にバイクの燃料代、USD1-/litter)がかさむため、USD3-/日当では、とても足りないため、調査員が途中で調査を止めてしまう可能性があるとのこと。

このため、後日、NISは、Ratanak Kiri州に対して、追加の委託費を支出する措置を取った。

Ratanak Kiri州は、少数民族が多いので、コミュニケーションに問題が生じる場合があるが、多くの場合には、村長(Village Chief)に依頼して対応してもらっている。なお、村長に対しては、カンボジア政府から人口センサスへの協力手当が支出されている。

朝早くから仕事に出かける人が多いので、夜中に、調査に行かなければならないことが多い。カンボジアでは、お坊さんが1つの職業であるとの認識が薄いため、お坊さんの場合に職業欄を空欄にしている場合が多かった。

このほか、Stung Treng 州内、Ratanak Kiri 州内及びブノンペンからの途中、人口センサスの実施を告げる横断幕（我が国のODAとJICAのロゴが入ったもの）を、要所々々で目にし、今回の人口センサスの広報活動が効果的であること、及び我が国の援助の良い宣伝にもなっていることを確認した。